

<認知症対応型共同生活介護用>

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 19年 5月 16日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム あったかハウス松元 (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏 名 <u>中島 文作</u> 氏 名 <u>大原 幸子</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者</u> 氏 名 <u>南 文代</u> ヒアリングを行った職員数 (2)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673100097		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム あったかハウス松元		
所在地 (電話番号)	鹿児島市石谷町1211-23		(電話) 099-246-7300
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号		
訪問調査日	平成 19年 5月 16日		

【情報提供票より】(平成 19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 11人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)		(新築) / 改築
建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (30,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1		1 名	要介護2		5 名	
要介護3		6 名	要介護4		6 名	
要介護5		0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	86.4 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 誠心会 ゆのもと記念病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした庭から桜島を望み、周囲には茶畑が広がるのんびりとした環境に建てられたホームは、住み慣れた暮らしに近い雰囲気である。「ゆっくり、ゆったり、けれども、しっかり」の理念を掲げて、入居者は一人ひとりのペースを尊重されながら、穏やかな生活を送っている。ホームには看護職員が配置され、協力医療機関との連携により医療面の支援も充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の啓発としてホームの理念の明示について検討を求められたが、ホーム内の掲示やパンフレット、運営規定、重要事項説明書への明示に加え、家族会、地域交流会、運営推進会議等を通じ、理念の説明を行うなど改善されている。その他の改善課題についても管理者を中心に検討され改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回勉強会を開き、評価項目毎に点検を行い理解を深めるなど、自己評価に対して、全員で前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ご家族代表や地域代表の参加はあるが、認知症に関する有識者や市の担当者に対して参加の働きかけがなされているものの、今のところ参加が無い。今後も引き続き、参加に向けて行政等への働きかけを行っていただきたい。また会議の記録はあるが、情報を職員間で共有する意味からも、内容がより具体的に分かるような記録方法について、検討していただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や、外部の相談窓口(行政・国保連・第三者委員)の明示に加え、地域交流会や家族会、運営推進会議等、運営に関して、ご家族が遠慮なく意見や不満、苦情を言えるよう取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭や小学校の運動会など、地域行事に参加したり、ホームにおいて、毎月地域交流会を開催するなど、地元の人々との活発な交流が図られている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ゆったり、けれども、しっかり」という、ホーム独自の理念がつくりあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、全員で理念を唱和しており、共有が図られている。日常生活においても、「待つこと」を常に心がけるなど、理念を意識したケアが実施されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や小学校の運動会など、地域行事に参加したり、ホームにおいて毎月地域交流会を開催するなど、地元の人々との活発な交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者が、月に1回評価についての勉強会を開き、評価項目毎に点検を行い理解を深めるなど、全員で自己評価を行っている。全員が評価の意義とねらいを十分に理解しており、細部にわたり前向きに改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の代表や地域の代表は参加しているが、認知症に関する有識者や市の担当者に対して参加の働きかけは行われているものの、今のところ参加が無い。また、会議の記録はあるが、具体的な会議内容がややわかりづらい。	○	引き続き行政等へ対して、参加に向けた働きかけを行っていただきたい。また、情報を職員間で共有する意味からも、内容がより具体的にわかるような記録方法について検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れにより得られた意見を、サービスの質の向上に活かしたり、日頃から行政の担当者を訪問し、情報交換を行うなどの連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、手紙で近況や金銭管理についての報告を行っている。健康状態やその他必要事項については、電話や面会時、機関紙、家族会などを活用して随時報告している。金銭管理の方法や家族への報告の仕方、書式などにバラつきが見られる。	○	金銭出納帳の書式の統一や、遠方のご家族等への報告方法や確認の仕方について、さらに検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や外部の相談窓口(行政・国保連・第三者委員)の明示に加え、地域交流会や家族会、運営推進会議等、運営に関しご家族が遠慮なく意見、不満、苦情を言えるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人には、複数のグループホームやその他の施設があるが、入居者が馴染みの管理者や職員からの支援を継続して受けられるように、職員の異動を最小限に抑える配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会に加え、法人全体での研修も実施されたり、必要な外部研修への参加も積極的に行われているが、研修計画に基づいて段階的に育成する仕組みとしてはやや不十分である。	○	職員各自の立場、経験、職務の理解や実践の習熟度に応じた段階的・計画的な学びの機会を確保するためにも、年間研修計画等に基づいた取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の複数のグループホームや、その他の関連施設との交流は盛んに行われているが、市町村合併以降、地域のグループホーム連絡協議会の活動も停滞するなど、地域の同業者との交流はやや不足している。	○	グループホーム連絡協議会活動の再開など、地域の同業者との交流を検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	関連施設からの入居も多く、ご家族との連携も含め、入居者ご本人が安心して納得してサービスを開始できるよう、相談員を中心とした入居に向けての取り組みが実践されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を、介護される側といった限定的な立場におかず、常に人生の先輩として、尊敬の念をもって接するよう努めている。方言や昔の風習、畑仕事の方法など、多くのことを入居者から学びながら共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、入居者と話をしながら、思いや意向の把握に努めている。意思の疎通が難しい方の場合には、ご家族と話し合いながら、入居者本位の暮らしが継続できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やご家族の意向を聞き、普段の暮らしぶりや職員の意見を参考にしながら、入居者本位の介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに介護計画の見直しが行われ、状態の変化等、必要に応じて随時の見直しも実施されている。独自のケアチェック表を作成し、毎日ケアチェックを行いながら気づきを書きとめているが、新たな計画作成のために効果的に活用されているとは言い難い。	○	介護計画の遂行状況や効果などの評価・見直しが、スムーズに行われるような記録のあり方や書式についての検討が期待される。ケアチェック表については、単なる項目チェックにならないように、より効果的な活用の工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の配置や、医療機関と連携した往診(2週間毎)、外来受診の支援等により、ホームでの継続した生活が可能となるように取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関がかかりつけ医となっている入居者は2週間毎、その他のかかりつけ医の場合も、定期的に外来受診に付き添うなど適切な医療支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、入居時や病態変化時に、入居者本人やご家族ならびに主治医と話し合いを行っているが、支援経過等に記録がなく、方針が共有されているとは言い難い。	○	話し合われた内容について支援経過等に記録し、関係者間で情報を共有できるよう検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを尊重すべく、入浴・排泄の支援や言葉遣いについて留意している。個人情報の取り扱いに関しても、入職時に秘密保持を含む雇用契約を結び、プライバシーポリシーや個人情報の利用目的を明示する等、十分な配慮がうかがえる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりごとを優先するのではなく、入居者一人ひとりのペースを大切に、入浴時間や献立、外出等、その日の体調に合わせた生活ができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望の献立や味付けなど、本人の希望にできる限り沿うよう努めている。また、可能な限りホーム内の畑から作物を収穫したり、調理、配膳、後片付けなどを一緒に行いながら、職員と共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態を勘案しながら入浴を楽しんでいただけるように、それぞれの希望の時間に入浴できるよう配慮している。体調の悪い場合でも、清拭や足浴、更衣などにより対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りやお菓子(ふくれ菓子)作り、野菜・花作り、絵画など、本人の得意とすることで喜んだり、楽しんだり、役割や張り合いを感じたりできるような支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごすことの無いよう、それぞれの希望も聞きながら買い物や散歩等、戸外に出られるように支援している。また、敷地が広いので、車椅子の入居者も日常的に庭の散歩ができるように配慮されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵をかけずに開放され、入居者が戸外に出たり、ご家族や関係者が気軽にホームを訪れることができる。夜間は施錠されるが、朝は、早起きの入居者が自ら玄関の開錠をされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定したものも含め、年2回消防訓練を実施している。有事の避難誘導に関しては、日頃から職員間で対応方法について確認されている。地域交流会において協力要請も行なわれ、次回は近隣の住民も訓練に参加する予定となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的な献立は協力医療機関の管理栄養士によって作成され、栄養バランスに配慮されたものになっている。日々の栄養摂取や水分確保に関しては、水分チェック表・バイタルサイン食事チェック表に記録し管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が大半の時間を過ごす共用空間は、天井が吹き抜けとなり開放的なスペースとなっている。光やテレビの音にも配慮され、テーブルには季節の花が飾られるなど、居心地よく暮らせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや整理ダンスなどホーム備え付けのものもあるが、テレビや仏壇を持込んだり、ベッドを布団に変えたり、家族の写真を飾るなど、入居者が居心地よく過ごせるように工夫されている。		